

## 「中央アジア+日本」対話・第12回東京対話（2023） 執行世話人挨拶

「中央アジア+日本」対話・第12回東京対話「中央アジア・コーカサスとの連結性」では、渡辺まゆグローバル・フォーラム執行世話人が開会挨拶を行いました。

### 「中央アジア+日本」対話・第12回東京対話開会挨拶 （2023年3月15日、於霞が関プラザホール）

皆様こんにちは。グローバル・フォーラム執行世話人の渡辺まゆでございます。

本日は、グローバル・フォーラムと外務省との共催により、「中央アジア+日本」対話・第12回東京対話「中央アジア・コーカサスとの連結性」を開催することができ、嬉しく存じております。また、本対話出席のために中央アジア・コーカサス地域よりご来日されました皆さま、会場そしてオンラインを通じてご参加の皆様に、グローバル・フォーラムを代表し、深く感謝申し上げます。

グローバル・フォーラム(Global Forum of Japan)は、今年で設立40年を迎える国際交流組織であり、その歴史的源泉は「四極フォーラム」という日・欧・米・加の賢人会議に遡ります。現在は、日本国際フォーラムという国際問題の政策シンクタンク内に事務局を置き、その国際交流部門を先導しています。GFJの強味は、米国、欧州、中国、ASEAN、インドなど世界の主要国との対話のみならず、中央アジアや黒海地域（Black Sea Area）諸国といった、日本ではなじみの薄い地域ですが、地政学的に戦略的重要性のある地域との対話も実施していることです。とくに、黒海・カスピ海沿岸諸国そして中央アジアは、欧州とアジアの東西回廊、ロシアと中東の南北回廊が交差する十字路であり、まさに通商（物流）・交通・エネルギー・軍事などの利害が絡み合う要衝として、ユーラシアの安定に極めて重要な地域です。我々は日本で先鞭をつけて2005年から黒海地域（Black Sea Area）対話を、2015年から中央アジアとの対話を重ね、同時に、これらをフォローするため、大国間のパワーがダイナミックにせめぎあうユーラシアについて、大国間のはざまにあるコーカサス、中央アジアの動向も注視した調査研究を、本日ご登壇の宇山智彦先生にもご指導を賜りながら長年、行って参りました。

さて、ロシアによるウクライナ侵略は、国際情勢を激変させましたが、豊富な天然資源を持つ中央アジアは、日本にとって、エネルギー安全保障や天然資源確保の観点からより重要なパートナーです。また、質の高い物流・インフラ整備や産業育成等のノウハウを持つ日本

は、ユーラシアの内陸に位置する中央アジアにとって、海への出口に向けた連結性、とくにロシアを経由しない「カスピ」海ルートを活用した連結性強化など、自由で開かれた持続可能な発展のために重要なパートナーであります。日本と中央アジアは、昨年 12 月 24 日の外相会合で、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を維持・強化するパートナーとしての相互協力の重要性を確認しましたが、本日の対話は、日本と中央アジアとの、未来志向の一層の関係強化に向けて、自由闊達な意見交換がなされることを期待したいと存じます。ご清聴ありがとうございました。